

自己評価結果

作成 あすなろ幼稚園

1、本園の教育目標

幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し思考する過程を大切にした教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と充分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

1 歳からの子どもの育ちを理解し、職員間の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、あすなろ幼稚園が今後担う役割について検討する。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	子どもの育ちの理解を全教職員で、積極的に推進し、それを現実の保育に添わせるように、具体的な場面について話し合いを行っている。
幼稚園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	園に求められる社会的なニーズも変化してきている。こうした背景を踏まえて、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、具体的に検討を始めている。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	幼児の発達のとらえのための研修を定期的に行うとともに、日々の子どもの姿について話し合う機会を毎日の職員会でもつようにし、自由闊達に意見が開示できる環境をつくっている。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	保護者から出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組みつつある。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	不審者情報が市保育課や警察から、随時提供されるようになってきたが、それに対する園での対応が充分ではないので、施設面での対応と、教員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルの作成を行いたい。
特別支援教育	幼児に対応した個別の指導計画の作成を検討するとともに、園医・保健所等の関係機関との連携をどのようにするかを検討したい。
園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、現代社会において求められる幼稚園の姿を保護者へのアンケートなどで確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。また、アンケート結果・自己評価の公表により、より透明性の高い保育現場を目指しています。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると、認められる。

7、財務状況

会計士による、適正な帳簿類の作成が行われている。